

国営農地再編整備事業 上士別地区



旭川開発建設部

1. 事業目的と概要

水田ほ場の大区画化と併せて地目変換による畑地化を一体的に施工し、併せて農地の集積に取り組み、大型機械化体系による生産コストの低減と集落営農の組織化によって省力化を図り、6次産業を推進するなど農業の振興を柱とした地域の活性化を図ることを目的とするもの。



2. 事業実施

■ 区画整理 狭小で不整形な区画を解消し、営農経費の節減を図る

整備前ほ場 65枚(0.3~0.5ha/枚)

整備後ほ場 4枚(標準3.4ha 最大6.8ha/枚)



1枚で6.8haの水田は道内最大の大きさ！！

【暗渠排水】

ほ場の排水機能低下を解消



【ほ場内用排水路】

ほ場内用・排水路のパイプライン化により水管理の効率化、省力化を図る



■農地造成

区画整理と一体的に整備し、効率的な土地利用を図る



■用水路工

用水路のパイプライン化により、水管理の効率化、省力化を図る



■道路工

幅員狭小を解消し、農産物流通の合理化や農村の生活環境の改善を図る



3. 事業実施の結果

■ほ場の大区画化に伴う大型作業機械利用体系の確立

ほ場区画の拡大と排水改良による農業作業機械の走行性の向上から、大型作業機械利用体系の確立へ



■区画整理による作業効率の向上

支線農道等の整備による作業効率の向上、および末端用排水路整備による、水管理の効率化



支線農道



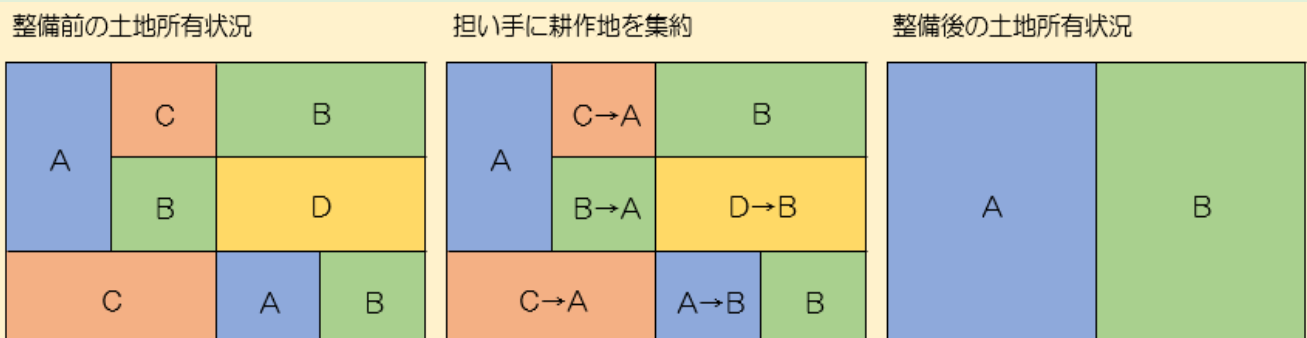
ターン農道



自動給水栓

■担い手農家への農地の集積

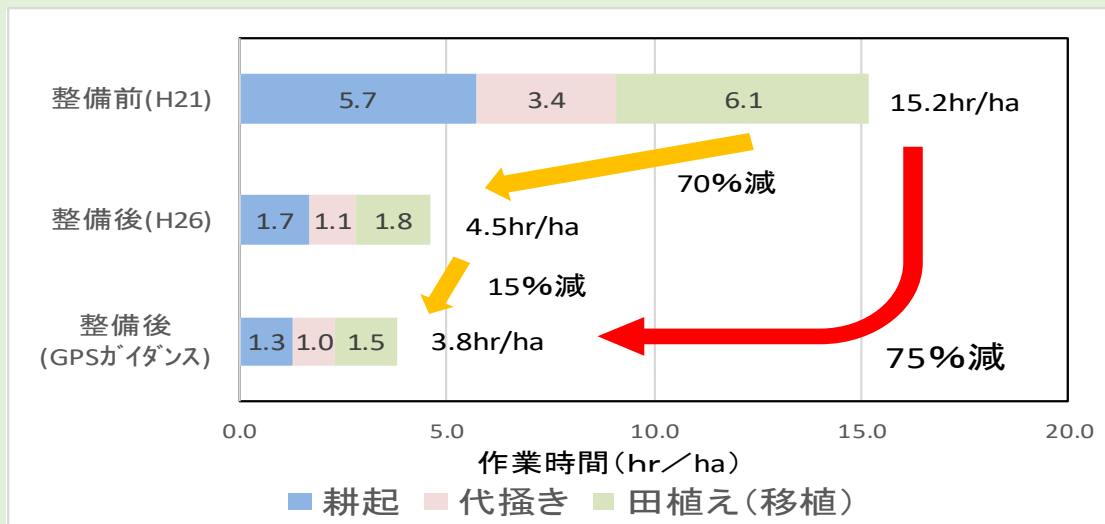
農地分散を解消し、担い手への土地集約がすすむことにより、ほ場の大区画化も促進



4. 事業実施の効果

■ 営農時間の削減

ほ場の大区画化、暗渠排水の整備により、整備後のほ場では大型機械への転換が図られ、巡回回数の減少や作業速度が向上し、耕起～代掻き～田植えにかかる営農時間は75%削減



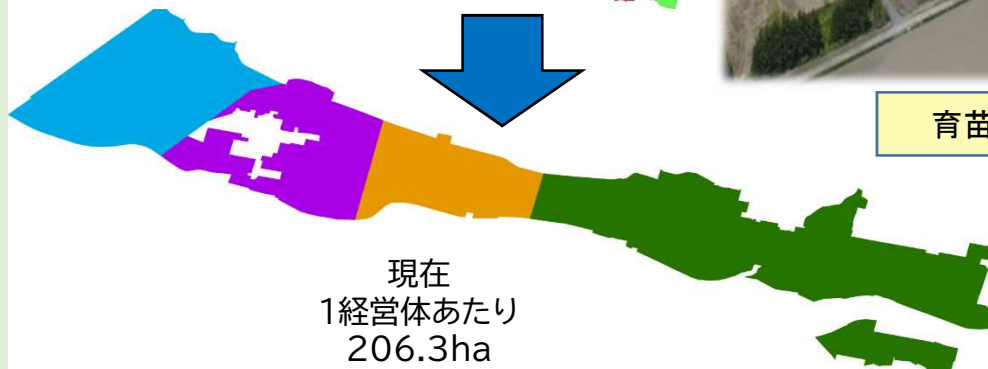
■ 集落営農組織の形成

事業を契機として、約80戸の小規模個別経営から大きく4つの組織経営体に集約。育苗施設と作業の共同化、営農機械の合理化など効率的な営農を展開

事業実施前



事業実施後



育苗施設の共同化

5. 事業を契機としたさらなる取り組み

■ ICT農業の推進

事業着工の3年後の平成24年3月、地域の農業者を中心に上士別ICT農業研究会が設立



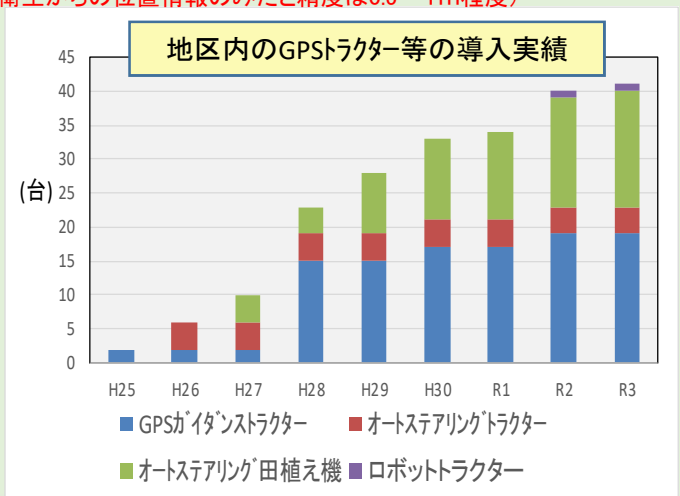
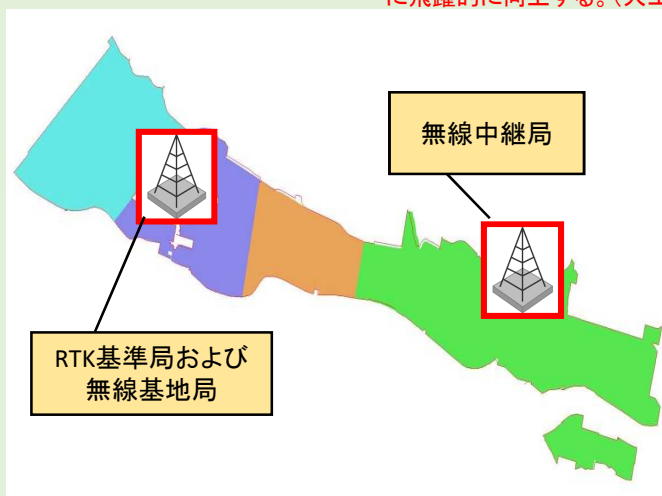
GPSガイダンスシステム
搭載型トラクター



オートステアリング田植機
手放して苗補給

人工衛星の電波だけでは数十センチの誤差が生じるため、地区内にRTK基地局と中継局を設置したことにより、GPSの精度は数センチまでに向上

※RTKとは
リアルタイム キネマティックの略。
人工衛星からの情報に加えてRTK基地[固定]局の補正情報受信により精度が2~5cmに飛躍的に向上する。(人工衛星からの位置情報のみだと精度は0.5~1m程度)



ドローンを活用した
防除作業



自動給水栓による
水管理システムの導入

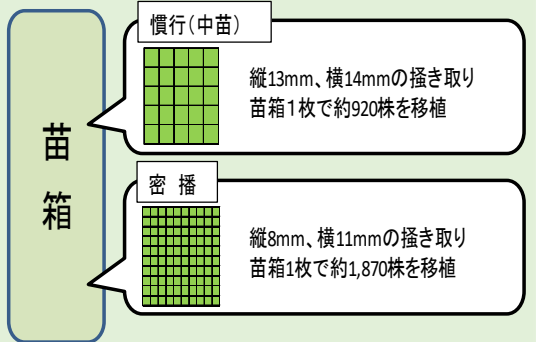
■ 新たな営農への試み～栽培コスト低減のチャレンジ



湛水直播栽培



良食味米「さんさんまる」
による栽培技術の検証



密播苗栽培

低コスト化
により、
一部
海外への
輸出にも

■ 6次産業化への取り組み



「上士別をきずこう会」による産業まつり
でのトマトジュース販売



酒米栽培・材料提供による
地域限定日本酒



道の駅での加工品販売

道の駅 羊のまち侍・しべつ



コメのインターネット販売

